館林市立第一小学校　学校だより　　令和５年６月２８日号

輝け！　一小っ子 No.3

発行者　校長　上村哲也

梅雨空でも明るい声が

梅雨に入り、せっかくの休み時間、校庭へ出られず室内で過ごすことも多くなっていますが、教室では子どもたちが楽しそうに語り合う明るい声が響いています。

新型コロナの影響が心配されましたが、校外学習、林間学校や修学旅行を予定通りに実施することができ、ほっと一息ついているところです。一学期も残り少なくなってきました。子どもたちの学習の状況をしっかりと見取り、学習内容の定着を図っていきたいと思います。

家庭教育学級でお伝えしたこと（ある講演会からの提言を踏まえて）

６月２０日（火）に家庭教育学級開校式（中部公民館主催事業）が開かれました。その時に、校長から皆様にお伝えしたことの一部をご紹介します。

＜茨城大学人文社会学部准教授　金丸隆太氏講演から　2023/5/25 ＞

第２次ベビーブーム期（1971 ～ 1974 年）は年間出生数が約 210 万人でしたが、2022 年の年間出生数は約 77 万人となり、少子化に歯止めがかからない状況です。その大きな理由は、子どもを産み育てることに対する夫婦の考え方に変化があったからです。かつては、結婚したら子どもを産み育てることは当たり前のように考えられていましたが、今は、自分たち家族の望ましい将来像を描きつつ、諸条件を踏まえて少数の子どもを産み育てています。つまり、現代の子どもは、周囲の大人から寄せられた期待に応えることを自分の役割と受け止めて過ごしています。その一方で、多くの情報にさらされ、期待と同時に不安を抱えています。

学校は子どもにとって多くの評価にさらされる場所です。自分が周囲から期待された役割を果たしているか気になり、様々なストレスを感じています。低い評価を受けた不満が積み重なると、頭痛や腹痛などの不調を訴え、不登校や摂食障害などの症状が現れることがあります。

子どもの一生を考えたとき、学校は川のような所であり思春期は河口にあたります。周囲の大人たちはその先には広い海があることを教えてあげてください。「今見ている世界は、これから経験する世界と比べればほんの一部に過ぎず、人生はどうなるものか分からないものだよ」ということを話してあげてください。

＜上記のような話の後に校長から参加者の皆様にお願いしたこと＞

〇自己肯定感を育みましょう　※自己肯定感＝自分の価値や存在意義を肯定できる感情

自己肯定感が高いと･･･自分も他者も大切にする　自信がもてる　意欲的になれる

自己肯定感を育むために･･･

短所も含めて子どもを大切な個人として受け止めてあげましょう

よいところをほめたり認めてあげたりしましょう

世の中には多様な価値観があることを大人がしっかり認識しましょう

〇学校では、意見の食い違いやトラブルは当然起こります。その様な時こそ、子どもを見守り、社会性やソーシャル・スキルを獲得する好機に変えていきましょう

児童集会「たてわり遊び」　5月から始まりました！

新型コロナの影響で多くの制約を受けていた縦割り遊びでしたが、今年度は全校児童が校庭へ出て、３つの集団（赤団：黄団：青団　※３団は運動会で対抗）に分かれて実施することとしました。

１年生は初めての経験です。下級生をリードする６年生が大きな役割を担います。慣れない様子も見られましたが、一生懸命頑張っています。

少子化が進み、地域での異学年交流の機会も減少する中、貴重な機会となる縦割り活動です。交流を楽しみながら仲よしを増やしてほしいと願っています。

学校の課題の解決へ向かって

学校の課題の中に、「元気な登校と活力アップ」、「花壇の管理」があります。この２つの課題の解決に向けて昨年度から学校運営協議会の皆様と検討を重ね、今回の活動に至りました。

＜元気アップサポート　カップスープで元気になあれ！＞　6月19日（月）

朝の登校時にカップスープを提供しました。梅雨に入り何かと気の重くなるこの時期に、子どもたちを元気づけ、明るく楽しく一日を過ごせるようにしようという試みです。

今回は12名のボランティアの皆様にご協力いただきました。楽しみにしていた児童が多く、いつもの月曜日より出足が早くなっていました。

今回は210名の児童が来場しました。満足そうに席を立つ児童の姿が印象的でした。「ごちそうさま」とお礼を言っていた児童もたくさんいました。改善を図りながら活動を続けていきたいと思います。

＜花苗の植え付け　花壇ボランティアの皆様と共に＞　6月21日（水）

昨年度より４名の方にご協力をいただいてきましたが、今年度は、14名の方々に加わっていただくことができ、新たな一歩を踏み出すことができました。児童もやる気満々で、緑化委員会の児童の他に65名もの児童が参加してくれました。

地域の方とのふれ合いを楽しみにしていたようで、ボランティアの皆さんに教えていただきながら和気あいあいと活動していました。子どもたちが活動を終えた後も、ボランティアの皆さんが丁寧に花壇を整えてくださいました。花がお好きな皆さんで、愛情がたっぷり降り注がれているように感じました。

活動後は、今後の活動について意見を交換しました。毎月、委員会に合わせて活動していただく他、ご都合のよい時に花壇整備に取り組んでいただくようお願いしました。これからもボランティアの輪を広げていきたいと思います。